

## 龍谷大学 臨床宗教師誕生 第1期公共空間でケアへ

龍谷大学大学院実践真宗学研究科が昨年4月から開設していた「臨床宗教師」の養成プログラムを締め括るにあたり1月29日、京都市下京区の龍谷大学大宮キャンパスでシンポジウムと修了証授与式が行われた。第1期生11人のうち、ほとんどは「公共空間」で心のケアへの実践に移る。

いる東北大学大学院実践宗教学寄附講座「臨床宗教師研修」と連携した同プログラム。その経緯や概要を臨床宗教師研修主任の鍋島直樹教授が報告。「東北大学が一大学で独占せずに全国に広げてほしい」という要請に大学側が応え、スタート。「大きな流れが二つある」と言い、一つは1985年以降の終末医療におけるビハラー活動であ



4人が臨床宗教師研修の感想を述べた

り、もう一つは1995年の阪神淡路大震災に際しての宗教者の取り組みだとした。

鍋島氏は「修了証をいただくことが目的なのではない。それぞれが活動できる場を公共空間で探し求めて、就職やボランティアに役立てること」と述べつつ、「1年やってみて叱られたこともあった。それは課題として2015年度の予定を変更した点もある」と改善策を講じたことも明らかにした。

受講生たちは座学のほか、あそかビハラー病院・ビハラー本願寺（京都）での実習、被災地宮城での東北大学との合同研修、宮崎県での福祉実習など現場でのケアを経験してきた。シンポでは4人の受講生が登壇し感想や手応えを発表した。

東北大学で臨床宗教師研修に携わっている谷山洋三准教授は、以前の研修時と比べ「成長した」と講評。そして臨床宗教師の宗教心について言及し、「臨床宗教師はいろんな宗教、あるいは宗教を持っていない方と関わる。そのため信仰が曖昧だと誤解を受けやすい。曖昧な人は臨床宗教師に相応しくない。芯があつて、なおかつ竹のように揺れることができる、そういう人が臨床宗教師に相応しい」と語り、今後の活躍を期待した。

龍谷大学の2015年度のプログラムでは、浄土真宗以外の宗教者（僧侶、坊守、神父、牧師、神職など）にも門戸を広く開放。募集は5〜10人。